

[平成21年度事業報告書]

I 事業の状況

当財団は三菱創業百年を記念し、わが国社会の学術・教育・文化並びに福祉の向上に資することを目的として昭和44年9月に設立され、その事業として学術研究の補助並びに社会福祉事業の助成を行なうものであり、本年度は設立以来第40回目(平成21年度)の助成を実施すると共に、引き続いて第41回目(平成22年度)の助成の募集を開始した。

1. 平成21年度助成の実施

(1) 学術研究を行なう者に対する研究費等の補助

A. 自然科学研究費の補助(公募)

自然科学の各学問分野の科学・技術の基礎となる独創的かつ先駆的研究とともに、既成の分野にとらわれず、すぐれた着想で新しい領域を開拓する萌芽的研究を助成対象とすることとし、全国の国・公・私立大学、国立大学附置研究所、関係主要学(協)会等および報道関係に対し、応募要領を配布し、本件周知方を依頼した。

その結果、応募締切の平成21年2月2日までに申込総数948件、8,658,544千円に上る多数の応募を受理。

これらの中から、4回に亘る自然科学選考委員会による慎重厳正な選考結果の答申を得て、次の通り助成を行なった。

件数51件、金額300,000千円。

B. 人文科学研究費の補助(公募)

人文科学関係者の基礎的かつ着実な実証研究を助成対象とすることとし、全国の国・公・私立大学、関係主要学(協)会および報道関係に対し、応募要領を配布し助成の周知方を依頼した。

その結果、応募締切の平成21年1月19日までに申込総数166件、460,458千円の応募を受理した。

その中から、2回に亘る人文科学選考委員会による慎重厳正な選考結果の答申を得て、次の通り助成を行なった。

件数36件、金額58,500千円。

(2) 社会福祉に関する事業・研究に対する助成(公募)

本助成については助成対象を、

- イ、 現行制度上、公の援助を受け難い、開拓的ないし実験的な社会福祉を目的とする民間の事業
(原則として法人に限る)
- ロ、 開拓的ないし実験的な社会福祉に関する科学的調査研究
(個人・法人等いずれも可)

とし、広く全国的組織をもつ社会福祉団体および報道関係等を通じ助成の周知を図った。

その結果、応募締切の平成21年1月9日までに申込総数 204件、566,801千円の応募を受理した。

これらの中から、3回に亘る社会福祉選考委員会による会議、並びに現地調査等による選考結果の答申を得て、次の通り助成を行なった。

件数41件、金額90,000千円。

(3) 諸事業費

上記(1)及び(2)の補助または助成以外に、更に わが国の学術研究並びに社会福祉の向上に必要な諸活動に関する援助として次の通り助成を行なった。

件数3件、金額5,000千円。

以上の如く、本年度当財団の行なった助成は総計で件数131件、金額453,500千円である。

自然科学、人文科学並びに社会福祉3分野の助成金の贈呈式については、平成21年9月9日三菱クラブに於て、文部科学・厚生労働両省はじめ、基金拠出会社の代表等、多数来賓の臨席の下 とり行なわれた。

2. 平成22年度助成申込の募集開始

(1) 学術研究を行なう者に対する研究費の補助

A. 平成22年度(第41回)自然科学研究助成については、助成金額の総枠を、とりあえず通常枠前年度並みの「3億円」予定とし、科学・技術の基礎となる独創的かつ先駆的研究とともに、自然科学の既成の分野にとらわれず、すぐれた着想で新しい領域を開拓する萌芽的研究を助成対象とすることとして、平成22年2月中旬募集を開始した。

(募集締切は平成22年3月10日)

B. 平成22年度(第39回)人文科学研究助成についても助成金総額を、とりあえず通常枠前年度並みの「6千万円」予定とした。

助成対象は人文科学分野の全般とするが、歴史・宗教・言語・文化人類・考古・美術等、狭義の人文研究に重点をおき、基礎的かつ着実な実証研究の内、特に優れたものに対し助成を行うこととし、平成22年3月初旬募集を開始した。

(募集締切は平成22年3月31日)

(2) 社会福祉に関する事業・研究に対する助成

平成22年度(第41回)社会福祉事業・研究助成についても、助成金総額をとりあえず通常枠前年度並みの「9千万円」予定とし、助成対象も下記の通りとして、平成22年2月中旬募集を開始した。

イ、現行制度上、公の援助を受け難い、開拓的ないし実験的な社会福祉を目的とする民間の事業(原則として法人に限る)

ロ、開拓的ないし実験的な社会福祉に関する科学的調査研究(個人・法人等いずれも可)

(募集締切は平成22年3月19日)